

賀茂大橋デザイン検討会議

第 1 回会議資料

- 議題 1 デザイン検討の概要について
- 議題 2 デザインコンセプトについて
- 議題 3 デザイン検討対象施設 各デザイン案

平成 27 年 1 月 20 日

京都市建設局橋りょう健全推進課

デザイン検討の概要 (1)

1 会議の目的及びデザイン検討対象施設について

(1) 会議の目的

賀茂大橋補修事業において、デザイン面の配慮が必要となる施設の整備に関して、専門の見地及び地域的視点から意見や助言を求めることを目的とする。



(2) デザイン検討対象施設

対象施設は、賀茂大橋の石製高欄、車両用防護柵、道路照明、歩道舗装、桁塗装、歩道灯籠照明とする。



歩道舗装



石製高欄、車両用防護柵（歩車道境界）



道路照明・歩道灯籠照明色



桁塗装色

(3) 会議開催スケジュールと検討内容（案）

第1回（今回）

- ・はじめに
- ・デザイン検討の概要説明，質問回答
- ・デザインコンセプトの提示，質問回答
- ・各検討対象施設のデザイン案の提示，質問回答

第2回（平成27年2月 予定）

- ・デザインコンセプトについての意見交換
- ・各検討対象施設のデザイン案についての意見交換

第3回（平成27年3月 予定）

- ・各検討対象施設のデザイン案の報告
- ・意見の整理

2 賀茂大橋補修事業について

(1) 賀茂大橋の歴史

現在の賀茂大橋は、都市計画道路の整備と市電第2期線建設の一環として、昭和6年に架設された。デザイン設計は、明治後期～昭和初期に関西で活躍した建築家武田五一氏が行い、当時の最新の技術が用いられた橋である。

（ 氏のデザインによる 橋 の代表作：河合橋，葵橋(以上，京都市)，肥後橋，渡辺橋(以上，大阪市)
同 建築の代表作：京都市役所本庁舎，京都府立図書館，京都大学時計台 ）

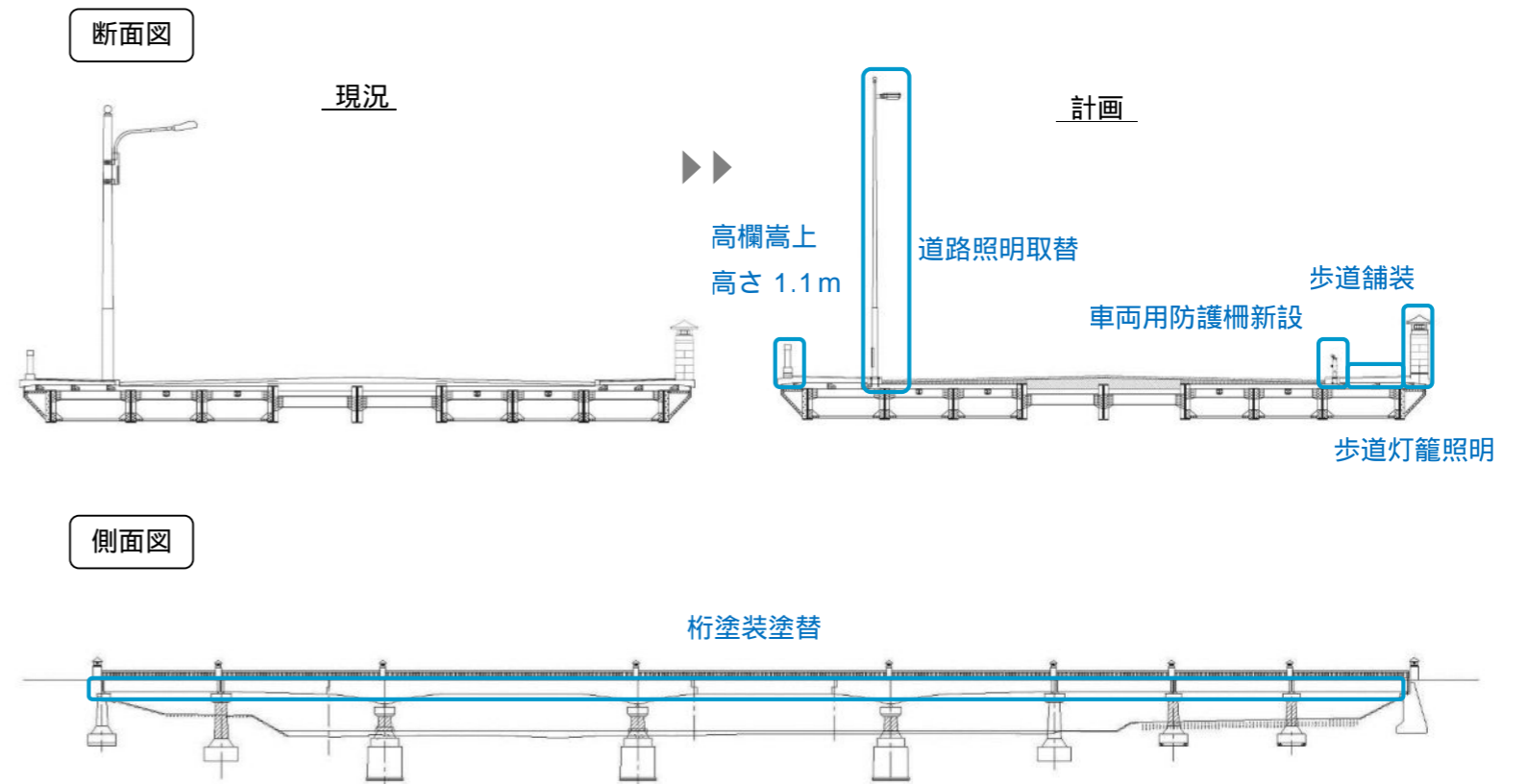
(2) 賀茂大橋の補修（橋りょう健全化）方針

本市は、平成23年12月に「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」を策定し、限られた予算の中で効率的・効果的に橋の健全化（耐震補強，老朽化修繕）を進めることとしている。本橋も対象橋りょうとして位置付けられており、設計を行った結果、架替は行わず、原形を保ちながら、補修・補強により対策を行うこととしている。

(3) 賀茂大橋補修に伴う周辺景観への配慮（デザイン検討）について

本事業で整備を行う、石製高欄，車両用防護柵，道路照明，歩道舗装，桁塗装色，歩道灯籠照明色については、周辺景観に影響を与えることから、周辺景観に配慮したデザインを採用する。

なお、デザインの決定に当たっては、デザイン検討会議を通じて、学識経験者や地元代表者の御意見を伺うものとする。



デザイン検討の概要(2)

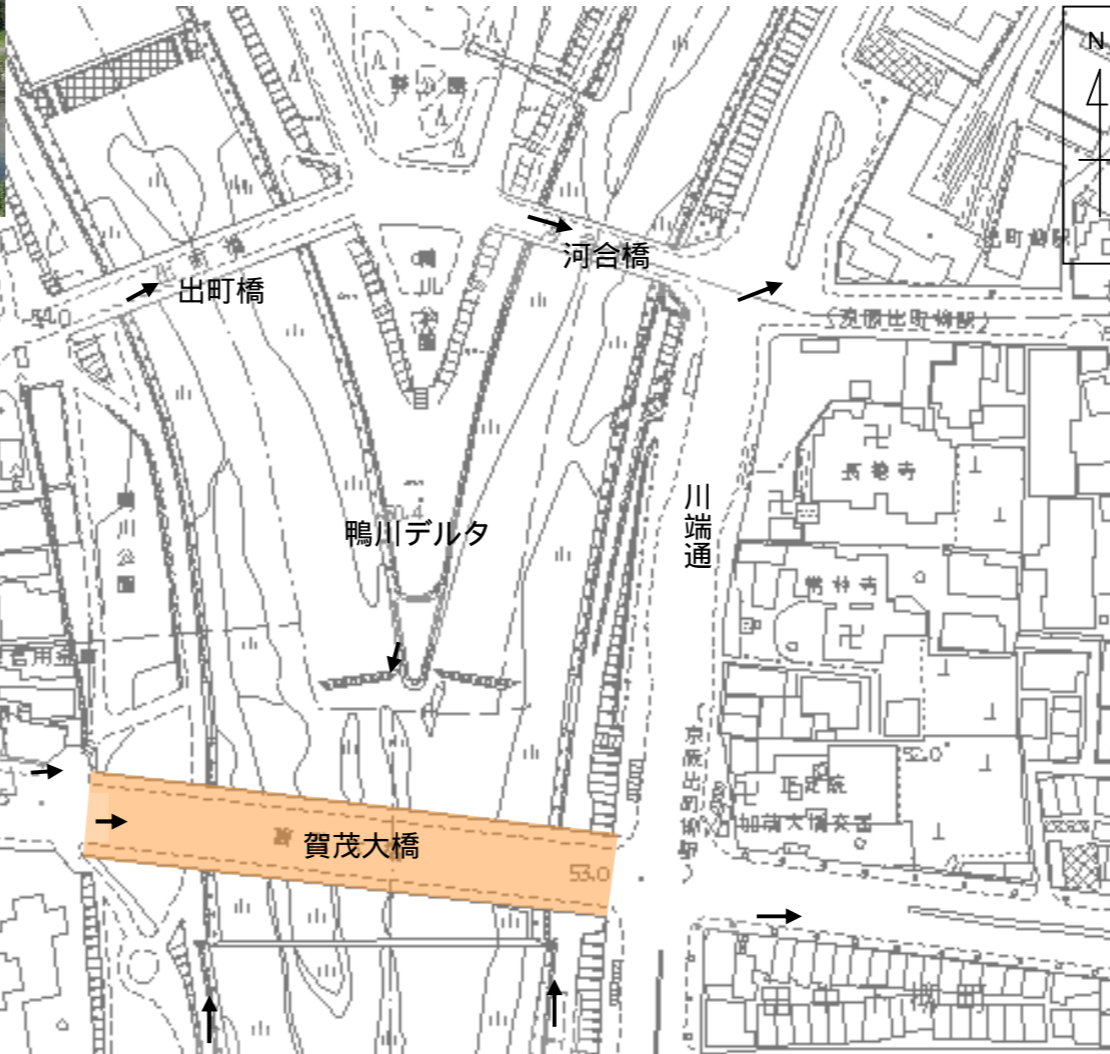
3 賀茂大橋の現状及び周辺状況



出町橋 歩道



鴨川デルタ 飛び石



河合橋(西から東を望む)



賀茂大橋西詰



出町柳駅



今出川通(賀茂大橋以西)



今出川通(川端通以東)



鴨川遊歩道(右岸側)



賀茂大橋西詰から東(如意ヶ嶽)を望む



鴨川遊歩道(左岸側)

賀茂大橋補修事業 デザインコンセプト

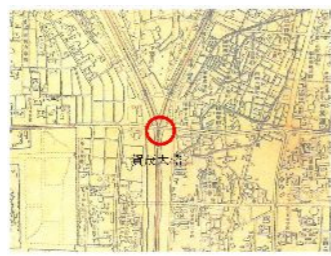
1. デザイン検討の背景（バックグラウンド）の整理

1-1 賀茂大橋の歴史的背景

今出川通から大原通へ通じる「京の七口」の大原口にあたる。もともと、出町橋、河合橋が架かっており、昭和6年に都市計画道路として、今出川通の整備に伴い、賀茂大橋が架設された。



改正京町絵図細見大成 [天保2(1831)年]



京都市街図 [昭和15(1940)年]

1-2 賀茂大橋の設計者（武田五一）の理念

「橋が風景の主要な一部となるよう」に心がけて計画した。
「橋梁形態は周囲の自然環境との調和を重視し、周辺の建造物の様式の基本となる様」に計画した。

1-3 賀茂大橋周辺の地域特性

賀茂川と高野川が合流する
鴨川デルタの親水ゾーン
下鴨神社、糺の森
北山や東山(比叡山、如意ヶ嶽)への眺望
「山紫水明」の地
五山の送り火の「大」、「法」の視点場
関係法令（京都市眺望景観創生条例、京のみちデザインマニュアル等）



鴨川デルタ



如意ヶ嶽への眺望

1-4 「『橋のみやこづくり』をめざして」の提言概要

鴨川の橋を文化的・芸術的なもの、個性的なものに変えていく。橋を自動車中心のものから、すべての人に安心して快適な、歩行者中心のものへと変えていく。
鴨川の橋を、生態系の中に位置づけ直し、私たちの意識を変えていく。
橋づくりを通じて、新しい鴨川の景観を創造していく。

1-5 賀茂大橋のデザインの特徴

当時の最新技術を使った（ゲルバー桁の）美しく軽やかな橋桁（鴨川に架かる橋で最長）
石製高欄や灯籠照明を用い和風で重厚な印象
個性的でありながら調和がとられ、地域に景観美を創出する橋



ゲルバー桁の軽やかな橋桁



石製高欄と灯籠照明

留意点の抽出

2. デザイン検討を進める上での留意点

2-1 歴史的背景からの留意点

賀茂大橋が持つ「個性的な景観美」が周辺の「山紫水明」の風景と『調和』している。
賀茂大橋・出町橋・河合橋の3橋によって創られる風景が、市民や観光客にも親しみと愛着を与える、地域に馴染んだ風景となっている。
したがって、賀茂大橋について、現況のイメージを損なわない方向で景観検討を行う。

2-2 賀茂大橋の設計理念からの留意点

「設計者の理念」を継承する。

2-3 賀茂大橋周辺の地域特性からの留意点

賀茂大橋周辺の地域特性により醸し出される景観に留意する。
「風致4種の鴨川特別修景地区」に指定されていることから、鴨川の風趣との調和を前提に、その材料は「自然素材」の使用を基本とし、「色彩や質感」は周辺環境との「調和」に配慮する。
「眺望景観保全区域の〈見晴らしの眺め〉」に指定されていることから、橋りょうを構成する全ての構造物は、良好な周辺景観を阻害しないよう、色彩は水辺や山並みと調和するように考慮する。
歩道舗装、高欄、車両用防護柵、照明および標識などの構造物は、「京のみちデザインマニュアル」に基づき、素材、色彩に留意する。

2-4 「『橋のみやこづくり』をめざして」からの留意点

「地域に馴染んでいる、賀茂大橋の個性的な構造美を尊重し、歩行者がより快適に利用できる空間を創出する」との観点に重点を据える。

デザインコンセプトの設定に際するキーワードの再整理

3. デザイン方針の検討

3-1 デザイン検討の前提

前提条件1 賀茂大橋の個性の尊重

鴨川に架かる橋の中で、最長の長さを有するゲルバー形式の美しく軽やかな橋である。また、石造りの高欄は、灯籠照明との組合せにより、和風で重厚な雰囲気を出している。

前提条件2 周辺環境との調和

周辺は鴨川デルタを中心に賀茂大橋・出町橋・河合橋の3橋からなる、地域に馴染んだ風景を形成している。
鴨川を散策する人々にとって、橋の形状や色彩、また、夜間照明で浮かび上がる橋の姿など、周辺環境との調和を考慮する。

前提条件3 歩行者にとっての快適な空間創出

遠方の山並みや、鴨川の河川風景の趣を眺望しながら、安心して歩行のできる、ゆとりある歩行空間の創出。

3-2 デザインコンセプトの設定

鴨川デルタを中心とした、出町橋・河合橋とともに賀茂大橋が形成している、地域に馴染んだ風景の継承。
重厚かつ軽快な賀茂大橋のイメージに沿った、歩行空間の創出と安全性の向上。

デザイン検討対象施設 デザイン案(1)

石製高欄について

【前提条件】

現況の石製高欄は高さが 1.0m であり，安全確保のため，高さを 1.1m にする必要がある。

【事務局案】

デザインコンセプトの「鴨川デルタを中心とした，出町橋・河合橋とともに賀茂大橋が形成している，地域に馴染んだ風景の継承」に基づき，出町橋・河合橋の高欄と類似した形状となっている，現況の石製高欄を嵩上げすることで，高さの基準を満たすよう計画する。

(現況)



(計画)



石製高欄の嵩上げ (1.0m 1.1m)

(参考)



出町橋



河合橋

車両用防護柵について

【前提条件】

賀茂大橋では，車両が橋りょうの外に飛び出すのを防ぐとともに，車両乗員の傷害および車両の破損を最小限にとどめて，車両を正常な進行方向に復元させる機能を有した車両用防護柵を，新たに歩道と車道の間を設置する必要がある。

【事務局案】




上記の機能を有する車両用防護柵の製品としては，以下のものがあり，景観に配慮されたもので，賀茂大橋の石製高欄に調和する車両用防護柵としては，アスレールが最良と考える。

アスレール		
キャプロア		
丸ビーム		
角ビーム		

デザイン検討対象施設 デザイン案(2)

道路照明のデザイン案

- 【前提条件】 ・車道及び歩道上の照度を確保する。灯具はLEDとする。
 【事務局案】 ・橋上景観を阻害しないスレンダーでシンプルなデザインとする。

	A 案	B 案	C 案
			
柱形状	円形柱	円形柱	八角柱
デザイン	石製高欄や橋脚で見られる，矩形のシルエットを支柱とアーム部で表現し，橋全体で統一感を持たせる。	最もシンプルで，主張しないデザイン。背景の東山への眺望を重視した形状。	現在ついている，旧市電柱の柱頭をモチーフにしたデザイン。市電が通っていた橋の照明灯として使用する（北大路橋で採用済）。

デザイン検討対象施設 デザイン案 (3)

歩道舗装デザイン案

- 【事務局案】
- ・舗装の素材は、石製高欄に合わせ、石材とすることで、品格のある歩行空間とする。
 - ・舗装の色彩は、石製高欄の色彩と合わせてグレー系とする。

A 案


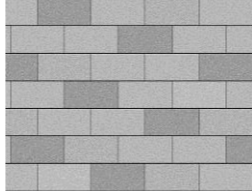



B 案



C 案



平面図			
素 材	白御影石 600 × 300	白御影石+黒御影石 (グレー系) 600 × 300	白御影石+黒御影石 (グレー系) 600 × 300 / 300 × 300
目 的	石製高欄と同じ色を用いることで歩行空間に統一性を持たせる。	色をランダムに配置し、多様な色をもつ東山等の背景になじませる。	色、形をランダムに配置し、多様な色をもつ東山等の背景になじませる。

景観に配慮した歩道舗装事例

1 東本願寺前(平板ブロック)



2 木屋町通(本御影石)



3 祇園 花見小路付近(本御影石)



4 八坂の塔付近(本御影石)



5 ねねの道(本御影石)



6 知恩院付近(擬石調ブロック)



7 寺町通(本御影石)



8 御池通(擬石調ブロック)



9 祇園 宮川町付近(本御影石)



周辺(今出川通)の歩道舗装状況

1 川端通以東(アスファルト)



2 賀茂大橋~河原町通間(インターロッキング)



3 河原町通 以西(インターロッキング)



デザイン検討対象施設 デザイン案(5)

桁塗装色の検討案

【事務局案】 ・賀茂大橋の桁の軽快な印象を活かす塗装色を選定する。

A 案 (現況塗装色)
(青みかかったグレー色)



マンセル値 : 5PB8/1



(現況)

現状の塗装色の色調を継承。
今の風景に馴染んでいる色。

B 案
(^{きなり}生成色 (ベージュ色系))



マンセル値 : 2.5Y9/1



(出町橋)
(当初)マンセル値 : 5Y7/1



(河合橋)
(当初)マンセル値 : 5Y7/1

出町橋・河合橋と同系色。
鴨川デルター体の景観にまとまりを出す。

C 案
(空色 (水色系))



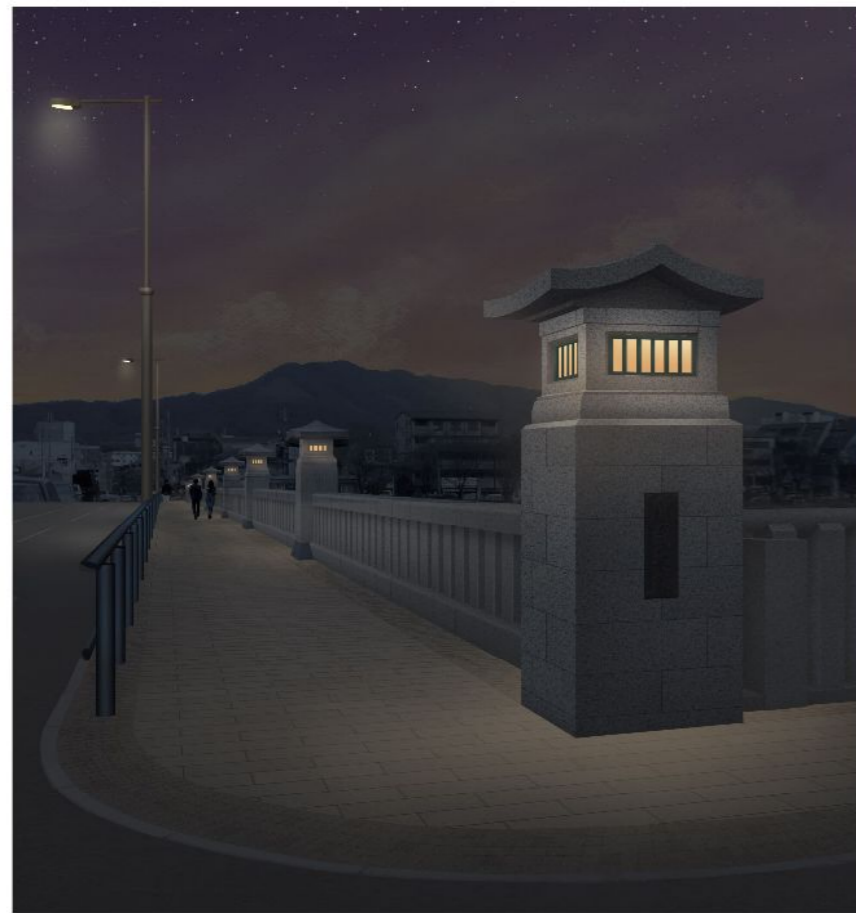
マンセル値 : 5B8/2

昼間の晴れわたった空の色。
背景の空に溶け込み、軽快な印象となる。

歩道灯籠照明の照明色検討案

【前提条件】 ・歩行者の通行に必要な明るさは車道照明で確保し、歩道灯籠照明は補助的な照明とする。

A 案



橙色
(現況案)

暖色系の灯りは、河合橋の灯籠や五山送り火の色と同調しており、賀茂大橋ならではの雰囲気を作っている。

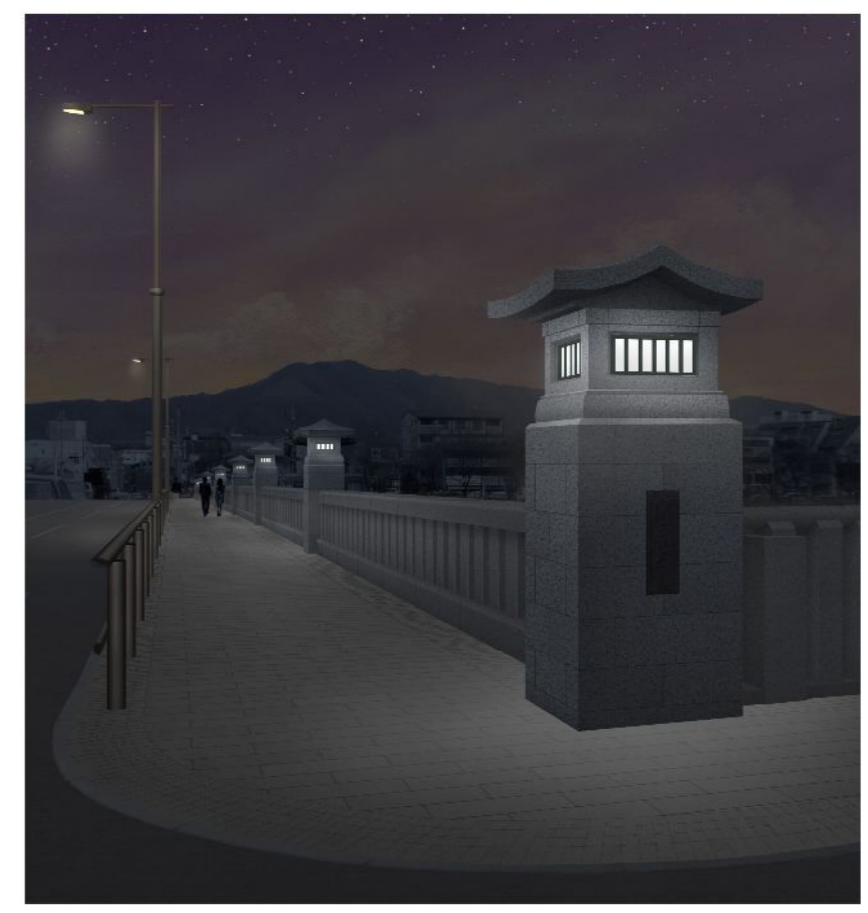
B 案



淡い橙色

A 案より周辺の見え方は良く、河合橋の灯籠や五山送り火の火の色と同調した色。

C 案



白色

照らされる周辺の見え方(演色性)は良い。